

五九九六 (次行)

「運轉嘯喻」

五九九七

夫れ天なる者は圓にして端無し、
地なる者は直にして端有り、

五九九八

直にして端有る者は長なり、

五九九九

體の天圓に有せらるるを以てなり、
而して地は一小圓塊を爲す、

六〇〇〇

圓にして端無き者は大なり、

六〇〇一

氣の地直に持せらるるを以てなり、
而して轉は一平長線を爲す、

六〇〇二

圓にして端無し、

六〇〇三

運轉は行を中に分つ、

六〇〇四

運轉は唯一の圓線なり、

六〇〇五

一線は西轉し、一線は東運するは、
圓の道なり、

六〇〇六

東して盡きず、西して窮まらざるは、
直の道なり、

六〇〇七

長逝を以てして東運は盡きず、
西轉は窮まらず、

六〇〇八

循環を以てして西轉し東運し、
往復は輪を爲す、

六〇〇九

氣は運轉を爲す、

六〇一〇

物は順逆を爲す、
故に

六〇一一

日行は月を逆えて朔を爲す、

六〇一二

日行は月の去るを送りて望を爲す、

六〇一三

月と日は行を天中に於て通ず、

六〇一四 東西は順逆し、以て上下を分つ、 (六〇一〇一四はD資料左を採る。)

六〇一五 日行は天の舊位に會するの頃を、一歳と爲す、

六〇一六 轉行は地の舊位に會するの頃を、一轉と爲す、

六〇一七 日は東して遅し、

六〇一八 西に轉じて疾し、

六〇一九 緩は疾中に在り。東する者は西す。

六〇二〇 東する者は天を周る、

六〇二一 西する者は地を周る、故に

六〇二二 日の周天は歳を爲す、

六〇二三 周地は日を爲す、轉の數に非ざるなり。

六〇二四 直にして端有り、

六〇二五 噓喻は氣の中に於て分つ、

六〇二六 噓喻は唯一の直氣なり、

六〇二七―二八 半邊は内に喩う、半邊は外に噓す、直の道なり、

六〇二九―三〇 噓は極まれば則ち喩う、喩は極まれば則ち噓す、圓の道なり、

六〇三一 長逝を以てして、而して此に喩し、彼に噓す、

六〇三二 循環を以てして南北は噓喻し、往復は幅を爲す、

六〇三三 氣は噓喻を爲す、

六〇三四 物は發收を爲す、故に

六〇三五

六〇三六

六〇三七

氣^き噓^こは物^{ぶつ}發^{はつ}を得^えて夏^{なつ}を爲^なす。

氣^き噓^{ゆう}は物^{ぶつ}收^{しゆう}を得^えて冬^{ふゆ}を爲^なす。

日^{にち}と地^ちと 同^{おな}じく物^{ぶつ}を爲^なす。

是^{こゝ}に於^{おい}て地^ち氣^きは南^{なん}北^{ほく}噓^{こきゆう}喻^うし。

日^{にち}と轉^{てんじ}持^じを分^{わか}つ。

(I 44a)